

議事録

主題：令和４年度 大津町振興総合計画等評価委員会
日時：令和４年 11 月 8 日（火）10:00～12:00
場所：大津町役場 3 階 会議室 302

出席者	評価委員会	黄在南委員長、家入立身副委員長、松本光行委員、小西悦子委員、吉田和信委員、松本カズヨ委員、大村吉幸委員、松島嘉浩委員、山下和貴委員、中尾精一委員、宇野馨委員
	大津町役場	藤本総務部長、坂本健康福祉部長、田上産業振興部長、村山都市整備部長 総合政策課：岩下課長、濱洲審議員、山田課長補佐、桐原主事、平野主事 ほか関係各課
欠席者	評価委員会	橋本千春委員

1. 議事内容

1. 開会

事務局より発言

2. 委員長挨拶

黄委員長よりあいさつ

3. 議事

<大綱「4. 生活環境基盤」分野について>

・空港整備によるアクセス鉄道、阿蘇くまもと空港駅と活用した拡大。交通のインフラがめぐまれた環境。交通量が多いということで多くの方が足を運ぶ。道路関係でも有望な場所。鉄道関係でも南阿蘇鉄道乗り入れ。阿蘇くまもと空港が国際空港としてリニューアルするということで、ゲートウェイの役割。新しいものを生み出す場所として大津町は最適な場所。駅をどのように活性化していくかが課題。R4 から織り込んでいただきたい。（委員）

・肥後大津駅周辺のまちづくり基本構想につきましては都市計画課で検討しております。TSMC の進出や空港アクセス鉄道の導入、南阿蘇鉄道のリニューアルなどにより、取り巻く環境が大きく変わっています。肥後大津駅を中心とした開発の整備について現状の課題を整理し、懇談会の開催を行い、方向性を定めて事業化に向けた基本構想を今後作成していきたいと考えています。（都市整備部）

・地方創生事業を活用した駅の南口を中心とした活性化を、駅周辺活性化協議会と一緒にやっている。今年度で一旦３年間の事業は終了するが、来年度以降も事業に手を挙げ、駅の北側も含めて駅周辺を大きく展開するようなまちづくりを目指していきたい。委員ご指摘のとおり、南阿蘇鉄道と空港のターミナルビル、東海大学の臨空校舎もオープンしますので、そこともうまく連携しながら、しっかりしたまちづくりを図っていきたい。（総務部）

・８ページ。町中部の交通について検討と書いてあるが、大津町は中央部だけではないので北部も南部も含めた形で行っていただきたい。産交バスの大津菊池線が運行しているが赤字だと思われる。広報を見るとバスや乗合タクシーに５,937万円の補助金を出している。それだけしないと運行できないということだと思う。町中心部以外の北部南部の公共交通を検討してほしい（委員）

・ご指摘のとおり、公共交通としては町内全域についての整備を進めていきたいと考えている。振興総合計画については、駅を中心にしたところに対策に取り組んでいくところを、あくまでピックアップして掲載している。ご指摘のとおり、北部南部についても公共交通の維持をしていきたい。バス路線の維持については、かなりの支出が伴っているところ。隣接する益城町菊池市と連携しながら路線の維持に努めている。効率的な維持については、公共交通会議等でもしっかり検討していきたい。今のところは乗合タクシーを充実させることにより、北部南部の公共交通を維持していきたい。いい手法がないかについては、隣接市町村とも話し合いながら検討を進めていきたい。（総務部）

・産交バスの大津菊池線は維持していくのか。朝見えても平日は０に近い利用者のように見える。しかし、免許証の返納をしたときに、乗合タクシーもいいが事前予約が必要なので帰りの時間の調整が難しいこともあるので、バス路線を維持していただくようお願いしたい。（委員）

・現在としては維持していくところ。赤字幅を見て精査し、隣接市町村と検討していきたい。（総務部）

・９ページ。大津町にもメガソーラーが多く設置されている。現在の事業者数、また今後どれくらいの事業者が来ることが考えられているのか。半導体の企業が来ると水が必要になるが、今日降った雨が地下にしみこんで明日出るわけではない。今後の考え方はどのようになっているのかお聞きたい。（委員）

・町内で１０キロワット以上のものについては、約７００カ所ある。１０００キロワット以上のメガソーラーについては町内１６カ所ほどある。北部地域の矢護川、平川流域については主に５つのメガソーラーが稼働しており、計画中のものが１つ、工事中のものが１つある。国が地球温暖化のため再生エネルギーの推進ということで進めているが、環境保全課としても何ができるかと検討しているところ。今後、大津町に太陽光の事業者が来るかということについては、北部の計画中のものを除いてこちらに話が来ているものはない。（住民福祉部）

・住みよいまちを町としてどのように考えているか。町民の皆さんが今後の大津町をどうしてほしいのか希望を聞いているのか。アンケートを取って戦略的なもので考えていかないといけないのでは。（委員）

・ご指摘のとおり、どういったことを住民の方が望まれているかは、行政としても日々探っているところ。今回の振興総合計画を策定するにあたって、毎年アンケートを取っており、どういったことを望まれているか集

計を取っている。住民の方のニーズは多岐にわたっているため、精査しながらその時に合わせた行政にできるところを探している。ピンポイントに迫った施策を打ち出せていないので、ご意見を参考にさせていただき考えて参りたい。（総務部）

・工業用水道がかなり不足している。北部・室等の整備をしてもらえると助かる。（委員）
・中核工業団地については、現在、工業用水道の整備が終わっており、ご要望に沿えるよう対応していきたい。北部・室工業団地については整備の予定は現時点ではないが、TSMC がらみでの半導体関連企業の進出により、供給量の不足も考えられるため、水道企業団とも検討しながら対応していきたい。（都市整備部）

・空港まで線路をつなげるとなった時に、貨物も運搬できると効率的になるのではないかなと思う。トラック利用も多少は減るので、渋滞の緩和にもつながるのではないかな。（委員）
・発着駅については、県と県議会で議論が行われており 12 月議会をめぐり最終的な結論を出すのではないかなと言われている。JR の複線化については話が出ていないので、早急に貨物輸送が活発になるというのは難しいのではないかなと思う。ご指摘のとおり、貨物の輸送が可能であれば渋滞緩和にもつながれると思うので、国や県、空港、JR とも協議していきたい。（総務部）

・地域の安全対策について。大津町企業連絡協議会の研修で人吉・球磨に行ったときに、地域コミュニティについての説明を聞いたが、近所同士で常にコミュニケーションを取っており、どこでどんな人が住んでいるか把握しているとのことだった。町が管理するのではなく地域でコミュニケーションをとっておくことで、瞬時に人助けができるのではと感じた。人吉ではボランティアセンターを発災の翌日には開設をして、受け入れを始めたということだったが、被災した地域ではすぐに開設することが難しいと思うので、町同士県同士の横のつながりも考えてほしい。（委員）

・各地域の防災計画を作っていただくところで考えている。各地域における、危険箇所、要支援者をどうやって把握していくのかというところを各地域と考え、地域ごとに災害が起きた際の避難方法などについて計画を作っていきたい。（総務部）

・災害ボランティアセンターは社会福祉協議会が窓口となっている。今年度から町の防災計画の中で社会福祉協議会も災害対策本部に入れさせていただいている。どの時点でボランティアセンターを立ち上げ運営していくかは、訓練を通して行っていきたい。（総務部）

・工業用水について、陣内あたりでは熊本市と連携して水張を行っている。真木・矢護川では地下水財団と連携して水張を進めている。TSMC が来た時の使用量、またソニーや東京エレクトロンがどのくらい使っているのか教えてほしい。水を相当使うと熊本市で水が出ないという話も出てくるのではないかな。（委員）
・7 月の報道によると、1 日 12000 m³、年間 438 万 m³が使用される予定。7 割については循環させて再利用される予定。（総務部）

- ・熊本地震で人の温かみや日本人のすばらしさを感じた。近所でも挨拶一つできる人とできない人が年齢にかかわらずいる。この状況では、災害時に助け合いもできないのではないかと思う。そういったことでコミュニティの大切さを感じた。熊本地震の経験もそうだが、研修の際に改めて感じたので発言した。（委員）
- ・地震の前は大きい地震は来ないと思って生活しており、地震があった時にバタバタしてしまった。熊本地震を経験したことで、区長さんを中心に見回りをしていただくなど住民の方の意識も変わってきている。コミュニケーションがイコール防災という形で、今後意見交換を進めていきたい。（総務部）
- ・熊本地震の際には大変混乱して住民の方にもご迷惑をおかけした。ボランティアセンターの運営等にしても、当時はボランティアの受け入れや物資の支給もうまく回せなかった。そういった反省も踏まえて復旧復興計画を作り対策を行ってきたところ。各団体の方が一緒になって地域の中で支えていき、常日頃から見守りをしていくことで地域福祉の充実を図っている。町としても防災交通課という新たな課を設置し、さらに力を入れていくところ。まずは我々が学習してきたことを住民の方にお示しして、住民の方が幸せになれる仕組みづくりをつくっていきたい。（総務部）

<大綱「５．町政運営」分野について>

- ・10 ページ。以前、町の職員が地域の担当として情報交換等がされていたが、コロナ禍でなかなかできていない。行政と地域の連携で町の職員をどのように活用するかあれば教えてほしい。（委員）
- ・地区担当職員として各地区に職員を割り振っている。コロナ禍により、地域の活動が減っていることに伴い職員が出向く機会も相対的に少なくなっている。コロナが収束したタイミングで地区担当職員の活動にテコ入れをしていきたいと考える。（総務部）

- ・各種委員等で女性の登用率について、上がっては来ているが今後どのように対応されていくのか。各地域の役員さんについては町から地域に指導等がされているのか、地域に任せているのかお聞きしたい。評価を B にされた理由についても教えてほしい。（委員）
- ・女性の方の審議会等の割合だが、会長が各審議会に上がっていくので、各委員さんでも上がってきていただく取り組みを行ってきたい。各地区に対しては、男性だからどう女性だからどうという固定観念をなくすところから行っていきたい。評価については、コロナ禍で活動が活発に行えなかったこともあり数字として挙がってきていないので、B にさせていただいたところ。（総務部）
- ・地区担当職員との交流は密になるよう、今後ともぜひお願いいたします。女性の参画については人材活用を含めてぜひお願いしたい。（委員）

- ・アンケートで自主防災組織について従前値が 8 割、目標が 9 割、実際は 7 割となっているが原因は何かあるか。地震後年を追うごとに自主防災が薄れているのか。（委員）
- ・従前の数値は、以前行っていたミニ特区事業の数値を分母としていた。現在は自主防災組織を整備したため各区を分母したこともあり 69%となっている。地震の前後の活動については、地域差はあるものの活発に活動していただいている区もあり、薄くなったとは感じていない。（総務部）

- ・防災無線が家の中では聞こえない。家庭用の端末機を補助等でもいいので準備していただけないか。

（委員）

- ・防災無線については以前から懸案事項となっている。スピーカーの向きや音量を調整させていただきたい。個別受信機は1台5万円程する。補助については検討させていただきたい。町ではLINEやメール、聞き直しの電話番号も設置しているところなので、そちらも活用していただきたい。（総務部）

- ・10ページ。アンケート回答数のうち満足していると回答している人がかなり少ないように感じる。8割以上が満足していないように感じるのは私の読み間違いか。（委員）

- ・この数値を見るとご指摘のとおり2割ほどが満足すればいいということになる。アンケートでは5段階で評価しているが6割ほどが「どちらでもない」を選択しているため、満足しているという方が2割という数値になっている。（総務部）

- ・「どちらでもない」をなくして、4つの選択肢にした方がいいと思う。（委員）